



にゅーすれたーふじやま・長泉



2016. 7

内視鏡検査を受けました！

パナソニックエイジフリーショッフ

6月中旬、生まれて初めて、大腸内視鏡検査（大腸ファイバー）を受けました。前日の夕方からの飲食は消化のよいものを摂るよう指示されていたのに、うっかり、消化の悪いトウモロコシを2本も食べてしまいました。

翌日、9時に病院に到着。午前中、大腸を洗浄する下剤を2時間で2リットル飲むように指示されました。私はこの量で2時間もあれば楽勝とたかをくくっていましたが、2時間格闘してようやく飲みきれました。その後、何回かトイレに通ううちに水のような便になります。用意された検査着に着替えていよいよ検査室へ移動です。検査台に上がり、鎮静剤の注射をされたような気がしますが、定かではありません。先生がいらして肛門から内視鏡を挿入して検査開始（13:00）先生はモニターを見ながらどんどんカメラを奥へ進めます。私は苦しくて、苦しくて、少し声に出してしまいました。所要時間は15～20分程度でしたが、倍くらいの長さに感じました。終わってからがまた、大変。痛いというより、胃から胸までが何かで圧迫されているようで苦しくて困りました。部屋で少し休むように言われ、1時間程度休みましたが、かなり大きなオナラが何回かでした。しかしオナラも徐々になくなると痛み、むかつきも消えました。さらに先生から「特に異常は見つかりませんでした」と診断をいただき、15:00、胸をなででおろしながら帰路につきました。



明治大学マンドリン倶楽部

6月26日（日）明治大学マンドリン倶楽部の演奏会がロゼシアターでありました。前回も行きましたが3年振りに開催されたのでとっても楽しく聴いてきました。

明治大学マンドリン倶楽部は大正12年に創設された、長い歴史のあるクラブです。皆さんもご存知のとおり日本を代表する作曲家、古賀政男氏が創設しました。今回は第一部・・・時代を彩る日本のうた、第二部・・・マンドリンで奏でる世界一周の旅と題して、いろんなジャンルの曲を演奏しました。「丘を越えて」という曲は古賀政男が大学卒業の年の春、後輩たちとハイキングへ行き、その時の楽しさと青春を称えて作った曲です。全国に蓄音器が20万台しか普及していない時代に、50万枚という大ヒットだったそうです。この曲を聴くと、私も、なんとなく気持ちがウキウキしてきて、過ぎ去った青春を思い出します。

今年マンドリンの聖地、イタリアへ約1週間の演奏旅行があるそうです。



社会を明るくする運動

「すべての国民が、犯罪や非行の防止と、過ちを犯した人の立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築こうとする全国的な運動」7月1日（金）ロゼシアター小ホールで第一部：講演会、第二部：街頭啓発出発式が開催されました。講演会の講師は宮本延春氏で演題が「オール1の落ちこぼれ、教師になる」でした。物凄い環境下で育ったオール1の彼があることによって、また、ある人たちに出会ったことによって、名古屋大学を卒業して教師になっていく過程をお話されました。作り話かと思うほどの経験をされていました。貧乏で大酒のみの乱暴なお父さん、実は自分はもらい子。。。。でも「母はいつも優しくしてくれた」という一言に涙がこぼれました。そして宮本さんからもう一度、お話を聴きたいと思い同時に「宮本さんはこれからも、多くの恵まれない子供たちに勇気を与えてくださるだろうな」と思いました。宮本さんほどは過酷な体験をせずに生きてきた私は、彼の話をお聞き「疑似体験」した気になりました。周囲の方々にこれまで以上に優しく接しようとして心に決めました。その日の夕方、街頭に立ち、チラシ配布による啓発活動を行いました。

おかえり。

渡邊啓視